

下水道部所管公共工事のコスト縮減について

【平成15、16年度 下水道部所管公共工事コスト縮減実施結果】

- コスト縮減対策に取り組んだ結果、平成15年度は150件のうち150件（取組率100%）平成16年度は143件のうち142件（取組率99.3%）の工事において、平成8年度の標準的な工事と比較して、それぞれ約5億4,000万円（設計金額の5.98%）約7億8,000万円（7.82%）のコスト縮減を得た。
- 取組施策の中で縮減金額が大きかった具体策は、
「管種及び管径の運用」、「公共工事間での建設副産物の利用促進」、「推進工事の長スパン化」
「土質改良土の利用」であった。
- 具体事例（下水道部下水道建設課）
平成16年度の「中島処理区（服織地区）下水道築造その1工事」において、従来の工法に比べ長距離推進が可能な泥濃式推進工法の採用により、約9,900万円の縮減を行った。

【今後の新たなコスト縮減への市全体の取り組みについて】

- これまでの取り組み
平成10年度から工事コスト縮減に取り組み、16年度までに約120億円の縮減実績を得た。
- 新たな取り組み施策の追加
これまでの取り組み施策（29施策120具体策）を継続すると共に、
「公共事業のすべてのプロセスをコストの観点から見直す」
新たな取り組み施策（31施策37具体策）を追加。（60施策157具体策）
更に具体的施策を公共事業の「企画・計画」、「設計・積算」、「発注・現場監理・検査」及び
「維持管理・技術管理」の4つのプロセスに分類した。
 - －見直しのポイント－
 - A 事業のスピードアップ
 - ・事業評価の実施による、事業箇所の厳選
 - ・協議・手続きの点検による、協議・手続の迅速化
 - B 計画・設計から管理までの各段階における最適化
 - ・ライフサイクルコストを縮減する、新技術の活用
 - ・施設の多目的化、複合化による効率的な整備
 - C 調達の最適化
 - ・市場単価方式の適用工種の拡大
 - ・総合評価落札方式等の技術力による競争の推進
- 目標値の設定
基準年を平成8年から16年度に変更し、17年度から20年度までの4カ年で
総合コスト縮減率12%の縮減を目指す。
- 今後も職員1人1人がコスト意識を持って取り組むことが不可欠であり、コスト縮減対策の定着と具体的施策の着実な推進を図るため、適切にフォローアップしていく。
- 下水道部においても、今後も積極的に建設コスト縮減に努め、目標値の達成に向けて努力を行っていく。